

福岡県医発第 1650 号（総）

平成 19 年 12 月 14 日

各 医 師 会 長 殿



福岡県医師会
会長 横倉 義武
(公印省略)

レジオネラ症防止対策の周知等について

標記の件について、福岡県保健福祉部医療指導課長より通知がありましたので、お知らせいたします。

本件は、最近においても、レジオネラ症患者の発生及び旅館や共同住宅等におけるレジオネラ属菌の検出が報告されたことから、感染を防止するため関係者や住民一般に対して、告示等の周知徹底を図るとともに、レジオネラ症に関する相談等に応じ必要な指導を行うものです。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了解いただきますとともに、貴会会員にご周知いただきますようお願い申し上げます。

小郡三井医師会より

担当理事 島田昇二郎



19医指第3180号
平成19年12月11日

社団法人福岡県医師会長
社団法人福岡県病院協会
社団法人福岡県私設病院協会
社団法人福岡県精神科病院協会
全国自治体病院協議会福岡県支部長

殿

福岡県保健福祉部医療指導課長
(医療指導係)



レジオネラ症防止対策の周知等について

本県の保健福祉行政の推進にあたりましては、平素から格別のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

標記について、厚生労働省健康局結核感染症課長及び生活衛生課長から別添(写)のとおり通知がありましたので、参考までにお知らせします。

つきましては、貴会会員に対し周知していただきますようお願いいたします。





健感発第1030001号

健衛発第1030001号

平成19年10月30日

各 都道府県
政令市
特別区

衛生主管部（局）長 殿

厚生労働省健康局結核感染症課長



厚生労働省健康局生活衛生課長



レジオネラ症防止対策の周知等について

レジオネラ症防止対策については、「レジオネラ症を予防するために必要な措置に関する技術上の指針」（平成15年厚生労働省告示264号）、「建築物等におけるレジオネラ症防止対策について」（平成11年11月26日生衛発第1679号厚生省生活衛生局長通知）、「公衆浴場における衛生等管理要領等の改正について」（平成15年2月14日健発第0214004号厚生労働省健康局長通知）などにより示しているところであるが、最近においても、レジオネラ症患者の発生及び旅館や共同住宅等におけるレジオネラ属菌の検出が報告されている。

レジオネラ属菌による感染を防止するためには、循環式浴槽や中央式給湯設備等において、衛生上の措置を講ずる必要があり、関係者や住民一般に対し、改めて告示等の周知徹底を図るとともに、レジオネラ症に関する相談等に応じ、必要な指導を行われたい。

（参考）

- ・パンフレット よく知ろう「レジオネラ症」とその防止対策（平成12年12月改訂版）
- ・旅館・公衆浴場等におけるレジオネラ症防止対策についてのホームページ

<http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/kenkou/legionella/index.html>

よく知ろう 「レジオネラ症」 とその防止対策

平成12年12月改訂版

知らないと危険！
きちんとした衛生管理体制を、
今すぐ整えて実行しましょう。



厚生労働省・(財)日本公衆衛生協会

レジオネラ症は 死亡者が発生する 感染症です。

●レジオネラ症での死亡例が発生しています。

レジオネラ症は、レジオネラ属菌が原因で起こる感染症です。急激に重症になって、死亡する場合もあるレジオネラ肺炎と、数日で自然に治る場合が多いポンティアック熱に分けられます。

レジオネラ肺炎は、乳幼児や高齢者、病人など抵抗力が低下している人や、健康人でも疲労などで体力が落ちている人などが発病しやすいといわれています。

施設側の管理責任が問われるなど大きな問題が生じています。

レジオネラ症

レジオネラ肺炎

●主な症状

- ・高熱・呼吸困難
- ・筋肉痛・吐き気
- ・下痢・意識障害

●特徴

急激に重症になり
死亡することもある

ポンティアック熱

●主な症状

- ・発熱
- ・寒気
- ・筋肉痛

●特徴

一般に軽症で数日
で治ることが多い

きちんと衛生管理されて いない循環式浴槽水が、 感染源になっています。

●エアロゾルが感染源です。

レジオネラ症は、レジオネラ属菌*に汚染された目に見えないほど細かい水滴（エアロゾル）を吸い込むことで感染します。

打たせ湯、シャワー、ジャグジーなどではエアロゾルが発生するので、循環式浴槽水を管理しなければなりません。

レジオネラ症は人から人へは感染しません。

レジオネラ属菌とは

レジオネラ属菌は、土の中や河川、湖沼など自然界に生息しています。アメーバなどの原生動物に寄生し、20～50℃で増殖します。したがって、我々の身の回りでは、冷却塔水や循環式浴槽水などで多く検出されます。



徹底した衛生管理で防げます。

入浴施設での衛生管理

入浴施設を安心して利用できるよう、レジオネラ症の発生防止のため、衛生管理を徹底しなければなりません。

そのためには、次のような点に注意します。

管理記録

各施設の自主的測定結果に基づく管理計画を立てて実施し、消毒・換水・清掃などの記録をつけます。
細菌検査結果と共に保存します。

残留塩素測定

レジオネラ属菌の消毒には、塩素が有効です。そのために、遊離残留塩素濃度を維持できるよう、測定キットによる定期的な測定を心がけます。

細菌検査

レジオネラ属菌の検査は、衛生管理が適切に行われているかどうかを確認するためのものです。

- 衛生状態に応じて実施し、検査結果は3年以上保存します。
- 細菌検査の依頼は近くの保健所に問い合わせれば、検査機関を紹介してもらえます。

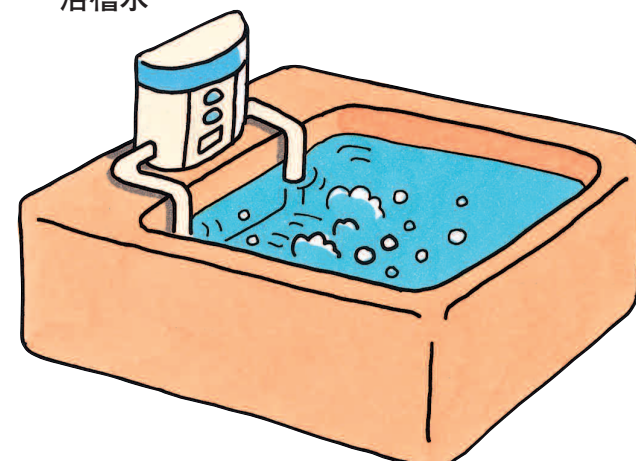
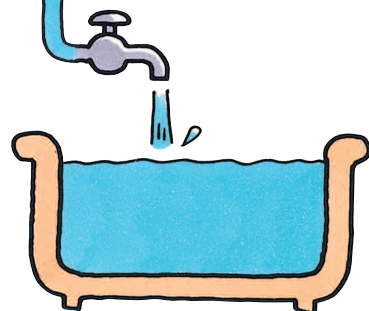
汚染防止のために

衛生管理を行う場合、その施設の利用状況や設備によって注意すべき点が異なります。
ここでは「貯湯タンク」「循環ろ過装置」「気泡発生装置・ジェット噴射装置・打たせ湯・シャワー等」
「露天風呂」について、レジオネラ症防止のための衛生的な管理方法を紹介します。

汚染防止のための施設・機器管理のチェックポイント。

貯湯タンク	循環ろ過装置	気泡発生装置・ジェット噴射装置・打たせ湯・シャワー等	露天風呂
問題点 貯湯タンクの中や配管では、お湯の滞留時間が長いため、低い水温ではレジオネラ属菌が繁殖しやすい環境となります。そこで次のような注意が重要となります。	問題点 ろ過装置内で、レジオネラ属菌はアメーバなどに寄生し増殖します。 また、浴槽や配管の内壁でもぬめり(生物膜)ができやすく、レジオネラ属菌の定着につながります。そのため、循環式浴槽のろ過装置の管理には、次のような注意が重要になります。	問題点 気泡発生装置(ジャグジー)やジェット噴射装置、打たせ湯、シャワーなどは、エアロゾルを発生します。そのため、エアロゾルにレジオネラ属菌が含まれることがないように、次のことに注意することが重要です。	問題点 露天風呂は外界と接しているため、レジオネラ属菌に汚染される機会が多くなります。そのため、内湯よりも厳しく管理する必要があります。
対処方法 ●湯温を常に60℃以上に保つ ●お湯を滞留させない	対処方法 ●ろ材の種類を問わず、ろ過装置自体がレジオネラ属菌の供給源とならないように、1週間に1回以上消毒を徹底する ●1週間に1回以上逆洗して汚れを排出する ●ヘアーキャッチャーを設置し、清掃する	対処方法 ●打たせ湯・シャワーなどには、連日使用型循環式浴槽水を使用しない ●空気取入口から土埃と一緒にレジオネラ属菌が入るのを防ぐ ※連日使用型循環浴槽水 24時間以上完全換水しないで循環ろ過している浴槽水	対処方法 ●露天湯が配管を通じて内湯に混じらないようにする ●洗い場を設けない ●満ばいの状態を保ち、溢水させ浮遊物等を除去し、清潔に保つ

貯湯タンク



浴槽水の管理

- 満ぱいの状態を保ち、溢水させ、清潔に保ちます。
- 循環ろ過装置を使用していない浴槽水および毎日完全換水型循環浴槽水は、毎日完全換水を行います。また、連日使用型循環浴槽水は1週間に1回以上定期的に完全換水を行います。
- 塩素剤による場合は、
 - ・塩素剤は、湯が循環ろ過装置内に入る直前に注入（投入）することが望ましいです。
 - ・遊離残留塩素濃度の測定を実施し、0.2～0.4mg/Lを1日2時間以上保つことが望ましいです。
- 温泉の泉質のため塩素消毒ができない場合は、
 - ・オゾン殺菌または紫外線殺菌により消毒を行います。
 - ・泉質等に影響を与えない範囲で、塩素消毒を併用することが望ましいです。

入浴者に対する注意

入浴者に対しても汚染防止のために、入浴施設側から注意書き等で呼びかける必要があります。

- 
- An illustration of a person wearing a white headband and a blue bathrobe, sitting in a blue bath. A small wooden bucket is on the floor next to them. Musical notes are floating above the bath. A large red 'X' is partially visible on the left side of the page.
- 身体を洗ってから入浴する
 - 露天風呂では身体を洗わない

レジオネラ症患者が発生した場合

入浴施設においてレジオネラ症と疑われる患者が発生した場合、その施設及びその近隣の施設から、さらにレジオネラ症患者が発生することのないように対処する必要があります。

施設の現状保持や使用の禁止など、原因究明に協力しなければなりません。

また、独自の判断で消毒剤投入等の処理を行うと、原因究明が進まず営業再開が遅れることもあるので特に慎重な行動が要求されます。

なお、不測の事態における被害者への補償のため、あらかじめ損害賠償責任保険に加入しておくことが望まれます。



対処方法

- 浴槽など施設の現状を保持したまま、速やかに所轄の保健所へ連絡します。



- 独自の判断で浴槽内等への消毒剤の投入はいけません。



- 入浴施設の浴槽の使用を中止します。

